

—大阪工業会と大阪商工会議所統合—

高研担当者とのお別れ会を開催

(社)大阪工業会は平成15年4月1日に大阪商工会議所と統合し新生スタートしました。高研の母体であった大阪工業会の名称もなくなりました。最後まで勤務してました高研担当者の皆さんに対しささやかな会を9月6日(土)ホテル日航ベイサイド大阪で行いました。

会員の皆さん27名ご招待者3名(森川様、大野様、西城様)の参加で楽しく近況を語り合えました、時間が短くて名残惜しみつつ、あわただしく過ぎてしまいました。杉山様が都合悪く欠席されたのは残念でした。

現在は下記に勤務されておられます

杉山良夫 鳥取県米子市大阪事務所
大野元祥 (株)アクアクララジャパン 総務部
西城昌信 (株)近鉄百貨店 法人外商本部
森川浩子 大阪商工会議所 経済産業部



大野さん 西城さん 森川さん

第三回デジカメを使いこなそう

2003年10月11日(土)神崎ビル4階にて行われました。出席者は7名と少しさびしかったですが講習会としてはこの程度のほうがコミュニケーションがとれていいのかもしれない。

今回は前2回の講習会の内容も含めたまとめとして行いました。内容は次の4項目です

1:手ブレとピンボケの防止 2:デジカメ撮影のコツ 3:画像の修正 4:画像ビューワーVIX

以上の中でやはり一番問題になるのはデジカメ特有の手ブレとピンボケだと思われます。

デジカメの場合液晶モニターを見ながら撮影される場合が多いと思いますが、この場合どうしても脇があまくなり手ブレを起こすと思われ、脇をきっちり締めるか、反対に腕をまっすぐに伸ばして撮ると手ブレしにくいといわれております。このようにして撮ると、ブレだけでなくホールドしている時間が長くなり、デジカメ特有の(オートフォーカスすべてにいえることですが)シャッターを押してから撮影までの時間のズレがある為に、撮影が終了していないのにカメラを動かしてしまいブレることも少なくなります。

基本は脇をきっちり締めてカメラを固定

左手でL形を作って乗せるようにすると安定する



ピンボケについては最近のオートフォーカスは高性能ですが、基本的にファインダー(モニター)の中心部分でピンと合わせをしていることを忘れないでください。オートフォーカスカメラで人物を撮影したのに後ろの景色にピントが合って、人物がピンボケになることがよくあります。これを防ぐにはシャッターの半押し(フォーカスロック)を心がけてください。人物の顔でまずシャッターを半押ししてピントを合わせ、半押しの状態のままで構図を決めてシャッターを最後まで押し込む

(奥谷会計)